

令和 3 年度

東北公益文科大学 地域共創センター事業報告



東北公益文科大学

Tohoku University of Community Service and Science

目次

< ページ >

令和 3 年度地域共創センターの活動	1
地域共創センター状況	4
事業報告書（ヒアリング及びマッチング事業）	5
（公益教養プログラム FORUM21）	8
（教養講座共創カフェ）	14
（学生活動支援）	16
（サービスラーニング支援事業）	21
（地方創生に向けた人材育成事業「ハタラクカタチ」）	23
受託事業・補助事業の報告	24
発行物のご案内	26
新聞記事	27

令和 3 年度地域共創センターの事業は
庄内開発協議会「公益のふるさとづくり活動補助金」
の助成を受けて行ないました

令和3年度地域共創センター事業概要

地域共創センター

センター長	吉村 昇
地域連携部会長	澤邊 みさ子
産学連携部会長	小野 敦
ブランディング部会	広瀬 雄二
防災・環境部会	呉 尚浩

(1) 地域共創センターの役割

令和2年度より地域共創センターの事業を更に拡大し、以下の4部会で活動している。

①地域連携部会

地域との共創の仕組み及び活動のノウハウを生かし、庄内の地域共創の拠点として、社会・地域課題の解決に取り組む。

②防災・環境部会

自治体、地域住民とともに、環境・防災教育の充実を図る。

③産学連携部会

大学と外部機関とのパートナー関係を構築し、産学官連携を推進する。

④ブランディング部会

地域に根差した研究ブランディング事業での取り組みを継続的に推進する。

(2) 地域連携部会の各種事業

①ヒアリングおよびマッチング事業

ヒアリングシートを用いて地域からのニーズを把握し、学内のシーズとの調整を行った。令和3年度は63件の依頼を受け付けた。マッチングが成立する各種事業、活動については必要に応じて地域共創センター職員及び地域連携部会員が実施、協力を行った。

②「公益教養プログラムFORUM21」、「共創カフェ」各種シンポジウム

教職員、学生を対象に企画募集を行い、地域共創センター運営委員会での協議の上、令和3年度は「公益教養プログラムFORUM21」を5回、「共創カフェ」を1回開催した。

③「学生活動支援学生活動支援助成金」、「まちづくりインターンシップ補助金」、「災害復興・地域防災活動支援助成金」の運営事業

「本学の活性化を目的とした学生による自主活動及び学生と地域との地域協働によるまちづくり活動」、「学生による災害復興・地域防災活動を支援するため、災害復興・地域防災に関する活動（被災地・避難者支援、地域防災活動など）」等に関する申請に対し、助成を行った。コロナ禍で、学生の活動が制限されたが、「moreE」による防災に関する勉強会、「ゲートボーラーズ」による地域との交流、「オレンジリボンチーム」による児童虐待防止の啓発活動、「IVUSA」による遊佐海岸の清掃活動など、5件へ助成を行った。

④サービ斯拉ーニング支援事業

学生たちに地域で活動する力をつけてもらうために、地域で活躍する講師を招聘し、学びの場を提供した。学生団体内でのコミュニケーションが活発になるだけでなく、個々のスキルアップにもつながった。

⑤地方創生にむけた人材育成事業

学生が庄内地域の企業を訪問、取材をし、若者ならではの視点で地元企業の魅力や地域で働く先輩のライフスタイルを発信している。令和3年度は、8社のインタビュー取材と、「地元企業（工場）見学会」（庄内地区商工会広域連携協議会共催）で、4社を訪問し、ツアー体験レポートを作成した。

記事をまとめ、冊子「ハタラクカタチ Vol.3」を発行した。本学学生への配布だけでなく、地元高校・近隣大学、商工会議所等へ配付・設置するなどご協力いただいた。

⑥受託事業・補助事業

「ボランティアコーディネーション力3級検定業務（酒田市社会福祉協議会）」を受託した。また、補助事業として「地域共創による公益のふるさとづくり推進事業（庄内開発協議会）」の採択を受けた。

⑦学生及び大学の地域活動等に関する発信事業

地域共創センターで支援を行っている学生の地域貢献活動、「公益教養プログラム FORUM21」、「教養講座共創カフェ」、その他委託事業等に関する情報を随時、大学のホームページ、地域共創センターのFacebook、Instagram、市報、山形県生涯学習センター「山形県生涯学習情報提供システム」等において発信し、積極的な発信を行った。令和3年度は印刷物として、冊子「ハタラクカタチ Vol.3」、「Liga 食品ロス削減チーム活動報告書」、「酒田おもてなし隊活動報告書」、「地域共創センターパンフレット」を発行した。また、「ビジネスマッチ東北」へ出展し、大学の教育研究成果を発信した。

(3) 産学連携部会の各種事業

①共同研究・受託研究の推進

産学連携を目指す研究分野の検討を行い、受託研究・共同研究の推進を行った。結果、受託研究3件、共同研究2件の協定を締結した。

〈受託研究〉3件

- ・海洋白書：笹川平和財団（樋口准教授）
- ・海洋の脅威への法的対応に関する調査研究：笹川平和財団（樋口准教授）
- ・鳥海山・飛島ジオパークのユネスコ世界ジオパーク登録に関する研究：鳥海山・飛島ジオパーク推進協議会（新名准教授）

〈共同研究〉2件

- ・児童虐待対応に関する共同研究：社会福祉法人本楯たちばな会（灰谷准教授）
- ・酒田市のコンパクトシティ化の検討（再契約）：酒田まちなかプロジェクト株式会社（三木学部長）

(4) ブランディング部会

①地域に根差した研究ブランディング事業での取り組みの継続

櫛引地区黒川能の舞をモーションキャプチャ装置でデジタル化し、後世に残す取り組みや羽黒地区松ヶ丘開墾場の歴史的価値をアーカイブ化する取り組みを継続してすすめた。コロナ禍において学外での取材・データ収集活動等を制限される状況が続いたが、学内での設計構築作業に向けた作業を進めた。プロジェクト型応用演習「地域の記憶を紡ぐ」では、黒川能の特徴やそれらをデジタル化することの意義や手法の基礎などを学んだ上でその応用について考察する教育を展開した。また、情報技術について学んだ知識を統合し、現実社会に資する情報システムを設計・実装する「情報処理特講」では、地域の歴史を、現代を生きる人々の想いを反映させた形で提示する手法などについて授業を通じて考察と実装を進めた。

②受託事業

「地域 IT 人材等育成事業（酒田市）」を受託し、4つの履修証明プログラム（「データサイエンスに係る講座」、「ビッグデータ解析・活用等にかかる講座」、「ドローン活用等を含む空間情報処理に関する講座」、「情報セキュリティに関する講座」）の開講、「ITに関する技術やアイデア、課題、疑問などを共有、解決するための誰もが参加できるイベントの開催」、「公益大メディア情報コース学生と市内 IT 関連企業、プログラマー等との交流事業」、「地元高校情報科生徒が公益大メディア情報コースを体験するプログラム」、「公益大生が IT を活用して地域課題解決に取り組むプログラム」、「公益大による IT を活用した地図コンテンツ作成」の9事業を展開した。

(5) 防災・環境部会

①自治体、地域住民と連携した環境・防災教育の充実

イ 環境

県内外の大学生を対象に「海ごみ環境教育リーダー育成研修」を2回実施。「RE:プロジェクト」（三川町中高生ボランティアサークル来夢来人、NPO団体、学生サークルと連携）において、事前学修会および赤川の中流域と河口付近海岸の2箇所でクリーンアップ活動を実施した。また、その関係者らを中心に共創カフェ「若者が発信する『海ごみゼロ』の文化ー中高大生による“私たちの取り組みと提案”ー」を開催した。

ロ 防災

大学周辺地区（宮野浦学区）および飛島において、行政・専門家と連携しながら、防災・減災のあり方について、学習会と現地調査を実施し、過去の災害履歴・資料から「バーチャル災害伝承館」構築の提案などを行った。また、昨年度に引き続きWeb地図を用いた防災マップの作成と改訂を行い、その効果的な発信・活用方法を検討した。

令和3年度地域共創センター状況

No.	開催日	時間	タイトル名・テーマ等	会場	人数
1	5月26日(水)	18:00～ 20:30	SAKATA Tech Night #2101 スーパームーンの皆既月食観察会	オンライン併用	70
2	7月26日(月)	13:00～ 14:30	公益教養プログラム FORUM21 コロナ対策と国際法 ークルーズ船の受け入れに関わる法のあれこれー	中研修室2 オンライン併用	25
3	9月3日(月)	19:00～ 21:00	SAKATA Tech Night #2102 Raspberry Pi 4 で作る 最小構成 Linux システム	オンライン開催	8
4	9月24日(金)	9:30～ 15:00	地元高校情報科生徒のメディア情報コース体験プログラム	中研修室1ほか	29
5	11月6日(土)	10:00～ 12:00	公益教養プログラム FORUM21 子どもと家庭の支援から考えようー保育の現場から地域へー	公益ホール オンライン併用	60
7	11月12日(月)	13:10～ 14:40	サービスラーニング事業 スタイルストに聞く！魅力的な写真の撮り方講座	中研修室2	18
8	11月19日(金)	17:00～ 19:00	SAKATA Tech Night #2103 部分月食観察会	図書館3階 オンライン併用	40
9	11月24日(水)	10:00～ 11:30	メディア情報コース学生と市内IT関連企業等との交流事業	104 教室	20
10	11月24日(水)	9:00～ 17:00	庄内地域における若者の定着に向けた産学連携事業 「地元企業見学会」(庄内地区商工会広域連携協議会との共催)	庄内エリア	10
11	12月11日(土)	10:30～ 12:00	公益教養プログラム FORUM21 発展途上国地方の社会経済発展にむけた政治・行政 ー親分子分関係から本人代理人関係へー	中研修室1 オンライン併用	15
12	12月15日(水)	15:05～ 16:50	公益教養プログラム FORUM21 陰謀論ってナニ？ーデマやフェイクニュースにだまされないー	公益ホール	78
13	12月25日(土)	17:00～ 21:00	SAKATA Tech Night #2104 Raspberry Pi 4 で AI カメラを作ろう！	オンライン開催	12
14	1月12日(水)	15:05～ 16:50	公益教養プログラム FORUM21 ネット時代におけるテレビのありかた	公益ホール	64
15	2月18日(金)	19:00～ 21:00	SAKATA Tech Night #2105 Raspberry Pi 4 でリモコンカメラを作ろう！	オンライン開催	13
16	2月24日(木)	18:00～ 20:00	共創カフェ 若者が発信する『海ごみゼロ』の文化 ー中高大生による“私たちの取り組みと提案 ”ー	オンライン開催	45
17	2月25日(金)	19:00～ 21:00	SAKATA Tech Night #2106 Raspberry Pi 4 作ったリモコンカメラをアップグレード！	オンライン開催	6
18	3月10日(木)	10:00～ 17:00	ビジネスマッチ東北 2022 春	夢メッセみやぎ	ー

事業名	ヒアリング及びマッチング事業	
目的	ヒアリングシートを用いて地域からのニーズを把握し、学内のシーズとの調整を行う。マッチングが成立する各種事業、活動については必要に応じて地域共創センター職員及び運営委員が実施協力を行う。	
	ヒアリング内容	依頼・相談者
1	ごみ減量化推進動画制作依頼について	酒田市環境衛生課
2	遊佐町総合発展計画の中間報告と後期計画策定に係る調査依頼及び協力に関する委託事業	遊佐町産業課
3	「山をきれいにしてウォーキング」の参加募集について	酒田市農林水産課
4	大学生サイバーパトローラー募集について	山形県警察本部 サイバー犯罪対策課
5	2021 年酒田花火ショー実行委員の追加募集について	酒田花火ショー実行委員会
6	バーチャルさくらんぼ収穫体験について	山形県企業振興公社
7	ゲートボール再生プロジェクトについて	山形県ゲートボール協会
8	「with コロナ時代の地方創生」について（オンライン）	酒田市企画部企画調整課
9	ホストタウン応援動画の撮影について	酒田市地域創生部交流観光課
10	県産酒の振興施策について	山形県産業労働部 商業・県産品振興課
11	グリーンツーリズムモニターツアー依頼	山形県庄内総合支庁 観光推進室
12	「光ヶ丘松林整備ボランティア」募集について	酒田市農林水産部農林水産課
13	若者「庄」学校ワークショップ へ学生派遣依頼	山形県庄内総合支庁 総務企画部総務課
14	じろで庄内 エイドステーションについて	じろで庄内実行委員
15	若年女性県内就職・促進協議会 学生委員の推薦について	山形県庄内総合支庁 産業経済部 地域産業経済課
16	学習支援員の派遣依頼	藤島地区自治振興会
17	わんぱく自然塾～夏の巻～ボランティア募集について	山形県金峰少年自然の家
18	若者地元就職魅力 PR 動画作成にかかる意見聴取について	酒田市地方創生部商工港湾課
19	朝日中学校への学習支援員募集について（夏季休暇）	朝日中央地区自治振興会 朝日中央コミュニティセンター
20	夏のボランティア体験 2021 について	特定非営利活動法人 クリエイティブがしね

	ヒアリング内容	依頼・相談者
21	遊佐高校活性化プロジェクトについて	合同会社 Oriori
22	「鶴岡淡水魚 夢童の会」ボランティア募集について	鶴岡市ボランティアセンター
23	つるおか食文化映画祭 実行委員の募集について	鶴岡市食文化創造都市推進協議会
24	「2021 こども大学 (楽)」ボランティア募集について	NPO 法人 明日のたね
25	「脳の健康教室」 教室サポーターの募集について	社会福祉法人正覚会 ライフケア黒森 酒田市地域包括支援センター
26	SDGs オンラインミーティング「山形のフードロスを考える」の周知について	山形市市民活動支援センター
27	十坂小学校での学習ボランティアについて	酒田市立十坂小学校
28	学生団体プラクシスへの地域おこしに関する取材について	酒田市立鳥海八幡中学校
29	酒田の紹介 in English 動画コンテストの開催について	酒田市地域創生部交流観光課
30	「酒田プロジェクト」への協力について	NHK 山形放送局
31	「酒田の塩」を活用したラーメンの開発について	株式会社スマイルーリンク
32	じろで庄内 ボランティアスタッフの募集について	じろで庄内実行委員
33	Sakata アートマルシェ 2021 運営スタッフの募集について	酒田市教育委員会 希望ホール
34	酒田小さな親切の会 2021 クリーン作戦参加者募集について	酒田小さな親切の会 事務局 前田製管株式会社
35	朝日中学生への学習支援員募集について(受験)	朝日中央地区自治振興会 朝日中央コミュニティセンター
36	「オンライン 100 人女子会」の周知について	株式会社千コミュニケート
37	酒田市スポーツ推進計画事業「スポーツ鬼ごっこ」について	酒田市教育委員会 スポーツ振興課
38	日和山小幡楼オープニングセレモニーテープカットについて	酒田市地域創生部交流観光課
39	「海浜ジオレンジャー」の顔出しパネル作成について	山形県金峰少年自然の家
40	若浜小学校の学習発表会の撮影ボランティアについて	酒田市立若浜小学校
41	オードヴィヌーボー2021 ラベルデザインについて	株式会社オードヴィ庄内 事業推進本部
42	「酒田リビングラボ」の開催について	酒田市デジタル変革戦略室
43	第 22 回「砂防林を育てよう」令和 3 年度出羽庄内公益の森づくり事業ー森林ボランティア活動の支援ー	庄内総合支庁・酒田市
44	観光庁の補助事業採択による協力依頼	株式会社 HENSROW KAMO design
45	山形県「輝く県民活躍大賞」への推薦依頼	酒田市教育委員会社会教育課

	ヒアリング内容	依頼・相談者
46	酒田の紹 in English 動画コンテスト表彰式の開催について	酒田市地域創生部交流観光課
47	「ボランティア・公益活動研修会」の案内について	鶴岡ボランティアセンター
48	公益活動研修会「伝わるチラシづくり講座」の案内について	酒田市市民部まちづくり推進課
49	やまがたハイブリッド環境展「環境動画」の投稿募集について	山形県 環境エネルギー部 循環型社会推進課
50	酒田おもてなし隊のラジオ出演について	YBC 山形放送
51	「インターナショナル・旅・リレー12月」について	酒田市地域創生部交流観光課
52	「山形子育てしあわせトーク」学生派遣依頼	山形県庄内総合支庁 健康福祉環境部 子ども家庭支援課
53	新番組「ヤマガタ SDGs ミライラボ」学生レポーターについて	YTS 山形テレビ
54	日向ささえあい除雪ボランティアについて	日向地区支え合い活動実行委員会 酒田市ボランティア・公益活動センター
55	令和3年度庄内地域創生懇談会の出席学生推薦について	庄内総合支庁 総務企画部 総務課
56	「インターナショナル・旅・リレー1月」について	酒田市地域創生部交流観光課
57	「やまがた若者応援大使」オンラインテーマサロンの周知について	合同会社とびしま
58	酒田商業高校跡地 再利用プロジェクト構想について	株式会社丸高
59	東北希望の襷マラソン山形天童大会ボランティアスタッフご協力をお願い	山形県スポーツコミッション事務局
60	「インターナショナル・旅・リレー2月」について	酒田市地域創生部交流観光課
61	障がい者アート展の開催について	一般財団法人 NHK サービスセンター 展開推進室
62	「インターナショナル・旅・リレー3月」について	酒田市地域創生部交流観光課
63	学んで、体験しよう！「ボランティアお試し講座」について	酒田市ボランティア・公益活動センター

事業名	公開講座公益教養プログラム FORUM21			
目的	課外の教養講座として実施しているもので、学内外の講師による幅広いテーマのプログラムを公開講座として開催する。			
	開催日時	タイトル名・テーマ等	講師	役職・職名
1	7月26日 (月) 13:00～14:30	コロナ対策と国際法 ークルーズ船の受け入れに関わる法のあれこれー	樋口 恵佳	本学准教授
2	11月6日 (土) 10:00～12:00	子どもと家庭の支援を考えよう ー保育の現場から地域へー	灰谷 和代	本学准教授
3	12月11日 (土) 10:30～12:00	発展途上国地方の社会経済発展にむけた政治・行政 ー親分子分関係から本人代理人関係へー	東江 日出郎	本学准教授
4	12月15日 (水) 15:05～16:50	陰謀論ってナニ？ ーデマやフェイクニュースにだまされないー	両角 晃一	元株式会社テレビ朝日 常務取締役
5	1月12日 (水) 15:05～16:50	ネット時代におけるテレビのありかた	大泉 謙	NHK 山形放送局長

FORUM2 1 活動報告書		担当者	進藤 啓
事業名	コロナ対策と国際法 ークルーズ船の受け入れに関わる法のあれこれー		
開催日時	令和3年 7月 26日 13:00 ～ 14:30		
会場	公益研修センター 中研修室2（オンライン併用）		
目的	昨年度ベストティーチャーに選出された樋口准教授より、専門分野である「国際法学」、「海洋にかかわる国際制度」についてお話しいただいた。		
内容	・船の寄港拒否は国際法に問題ないのか。 ・何日もかけて乗客の「検疫」をしたことは問題なのか。 ・世界的なコロナ流行で、船で働く人に何が起こったのか。		
講師	所属・職名	東北公益文科大学 准教授	
	氏名	樋口 恵佳	
主催	東北公益文科大学 地域共創センター		
協力団体			
参加人数	25名		
感想	学生、教職員以外にも多くの参加者を得て、オンライン受講13名、対面受講12名の合計25名にご参加いただいた。 参加者アンケートでは、「国際法は難しいイメージがあったが、とてもわかりやすく説明していただいた」、「国際法をコロナウイルス感染症と関連付けて聞くことができ、良い経験になった」、「コロナウイルス感染症の影響により、船で働く人たちの雇用や、寄港地での受け入れ態勢が整わず混乱が生じたため、今後どのような見直しが行われ、改善されるか注目したい」など多くの意見や感想が寄せられた。		

FORUM2 1 活動報告書		担当者	進藤 悠子
事業名	子どもと家庭の支援を考えよう ー保育の現場から地域へー		
開催日時	令和3年 11月 6日 10:00 ～ 12:00		
会場	公益研修センター 公益ホール（オンライン併用）		
目的	灰谷准教授より保育現場でのアセスメントシートの活用から、保育・教育・子育て支援の現場における実践的な研究成果を報告。 また保育士、作業療法士のそれぞれの立場から、これからの保育現場のあり方についてパネルディスカッションをしていただいた。		
内容	「保育現場における子ども家庭のアセスメントの必要性」について灰谷准教授より講演後、パネリスト4名（社会福祉法人本楯たちばな会 本楯保育園 園長 阿部明恵 氏、主任保育士 小笠原和美 氏、医療法人健友会 介護老人施設ひだまり 副施設長 佐藤裕邦 氏、NPO やまごや 代表 平向正包 氏 ）によるパネルディスカッションを行った。		
講師	所属・職名	東北公益文科大学 准教授	
	氏名	灰谷 和代	
主催	東北公益文科大学 地域共創センター		
協力団体			
参加人数	60名		
感想	学生、教職員以外にも多くの参加者を得て、オンライン受講25名、対面受講35名の合計60名にご参加いただいた。また、オンライン開催ということもあり、庄内地域に在住の方だけでなく、県外の方にもご参加いただくことができた。 参加者アンケートでは、「アセスメントシートを活用することで子どもとその家庭の強みを発見することができるのだと学んだ」、「福祉の分野でも枠を越えた協力・連携が必要になると思った」、「作業療法士の視点や技術などは、これからの家庭や子どもに関わる様々な問題を解決する糸口になると思った」など多くの意見や感想が寄せられた。 当日は本学学生団体「オレンジリボンチーム」の活動も行い、オレンジリボンの配布を通して、子どもの虐待予防の啓発を行った。		

FORUM2 1 活動報告書		担当者	進藤 悠子
事業名	発展途上国地方の社会経済発展にむけた政治・行政 一親分子分関係から本人代理人関係へー		
開催日時	令和3年 12月 11日 10:30 ～ 12:00		
会場	公益研修センター 中研修室1（オンライン併用）		
目的	今年度着任された教員の新任紹介も兼ねて、東江准教授より、専門分野である「発展途上国の実態」、「途上国開発と地域住民・行政・政治」についてお話しいただいた。		
内容	世界の圧倒的多数を占める「途上国」では、政治や行政が健全でないために、貧困や飢餓、民族紛争など、様々な問題が起きている。 この講座では、途上国の政治や行政の実態や問題を理解するためには、日本はどのようにアプローチしているか考える。		
講師	所属・職名	東北公益文科大学 准教授	
	氏名	東江 日出郎	
主催	東北公益文科大学 地域共創センター		
協力団体			
参加人数	15名		
感想	オンライン受講6名、対面受講9名の合計15名の方に参加いただいた。またオンライン併用での開催ということもあり、庄内地域以外の方にも参加いただくことができた。 参加者アンケートでは、「政治が正しくあることは国民の生活だけでなく、その国の経済発展に大きく影響することを学んだ」、「様々な問題を解決するためには、民主的正当性を高めることが大切であり、本人代理人関係の重要性を国民が認識することが欠かせないと思った」、「市民目線から行政や政治を見直すことや、発展途上国における政治の仕組みを知ることができた」など多くの意見や感想が寄せられた。		

FORUM21 活動報告書		担当者	進藤 悠子
事業名	陰謀論ってナニ？ ーデマやフェイクニュースにだまされないー		
開催日時	令和3年 12月 15日 15：05 ～ 16：50		
会場	公益研修センター 公益ホール		
目的	本学の講義である「時事問題特講」を市民の方にも公開し、FORUM21として開催した。マスメディアとインターネット社会について講演していただいた。		
内容	東日本大震災の直後に発生した「コスモ石油の黒い雨」など、具体的なデマのケースを取り上げながら、そのメカニズムと人間心理を考える。そしてデマや陰謀論に騙されない「情報リテラシー」の考え方について考える。		
講師	所属・職名	元株式会社テレビ朝日 常務取締役	
	氏名	両角 晃一 氏	
主催	東北公益文科大学 地域共創センター		
協力団体			
参加人数	78名		
感想	時事問題特講の受講学生と、一般参加者の合計で78名の方に参加いただいた。 参加者アンケートでは、「情報が溢れる時代のなかで、本当に正しい情報はなんなのか、しっかり見分ける必要があると思った」、「陰謀論という言葉が聞いたことがあったが、今回詳しく説明していただき、理解することができた」など多くの意見や感想が寄せられた。		

FORUM21 活動報告書		担当者	進藤 悠子
事業名	ネット時代におけるテレビのありかた		
開催日時	令和4年 1月 12日 15:05 ～ 16:50		
会場	公益研修センター 公益ホール		
目的	本学の講義である「時事問題特講」を市民の方にも公開し、FORUM21 として開催した。マスメディアとインターネット社会について講演していただいた。		
内容	1990 年代以降、インターネットが急速に普及。テレビを見なくても、SNS を通じてニュースやトレンドを知ることが可能になり、ドラマや映画など動画配信サービスを利用することでそのニーズは満たされることとなった。もはやテレビは“オワコン”なのか？改めてテレビに求められる役割を見つめる。		
講師	所属・職名	NHK 山形放送局 局長	
	氏名	大泉 謙 氏	
主催	東北公益文科大学 地域共創センター		
協力団体			
参加人数	64名		
感想	時事問題特講の受講学生と、一般参加者の合計で 64 名の方に参加いただいた。 参加者アンケートでは、「テレビの高齢化という考え方はなるほどと思った」、「動画配信サービスを利用する人が増加しているなかで、テレビ業界は日々、様々な工夫を凝らしていることがわかった。これからはテレビとネットを上手に組み合わせて生活していきたいと思った」、「様々な情報に踊らされるのではなく、しっかりと事実を見極めなくてはならないと思った」など多くの意見や感想をいただいた。		

事業名	教養講座共創カフェ		
目的	小規模で双方向形式の教養講座。学内外の講師や本学学生による幅広いテーマのプログラムを開催する。		
	開催日時	タイトル名・テーマ等	主催者
1	2月24日 (木) 18:00～20:00	若者が発信する「海ごみゼロ」の文化 ～中高大生による“私たちの取り組みと提案”～	地域共創センター

教養講座共創カフェ 活動報告書		担当者	呉尚浩・樋口恵佳
事業名	若者が発信する「海ごみゼロ」の文化 ～ 中高大生による “私たちの取り組みと提案” ～		
開催日時	令和4年 2月24日 18:00 ～ 20:00		
会場	オンライン開催（ZOOM を使用）		
目的	今年、地域共創センター防災・環境部会がコーディネーターとして関わった「RE:プロジェクト」の関係者、学生団体 IVUSA の県内外のメンバー、SDGs 科目「海ごみ問題と循環型社会デザイン」の履修生から、中高大生が取り組む「海ごみ問題の解決」に向けたクリーンアップ活動やアクションプランの提案について報告する。さらには、未来に向けて庄内の若者からはじめる「海ごみゼロ」の文化の発信について、参加者と結びながら関係者によるディスカッションを行う。		
内容	● 「RE:プロジェクト」報告（三川町中高生ボランティアサークル「来夢来人」メンバー） 「来夢来人」主催、地域共創センター、NPO 法人パートナーシップオフィス、公益大学生サークルの「SOLEIL」（IVUSA 山形酒田クラブ）や「SCOP」共催で、赤川河川敷や河口周辺のクリーンアップなどに取り組む活動 ● 「第三次山形県循環型社会形成推進計画」推進に向けたアクションプラン提案（SDGs 科目「海ごみ問題と循環型社会デザイン」履修学生） ● 「第6回山形県日本海沿岸清掃活動」での遊佐町の海岸清掃報告（IVUSA <NPO 法人国際ボランティア学生協会> の県内外メンバー）		
報告者	○ コーディネーター 呉尚浩（本学教授） ○ パネリスト 菅原知子（三川町教育委員会・来夢来人事務局）、樋口恵佳（本学准教授） 大谷明（NPO法人パートナーシップオフィス） ○ 報告者 ・三川町中高生ボランティアサークル「来夢来人」副代表：佐久間美羽、松澤稜（鶴岡中央高1年） ・IVUSA：佐藤創太郎（公益大4年）、佐藤愛里（法政大学2年）、佐藤和（東京家政大学3年）、間地康文（法政大学4年） ・公益大「海ごみ問題と循環型社会デザイン」履修生（1年）：柿崎百花、阿部綾音、吉宮桃香、竹石成希、奥泉翔		
主催	東北公益文科大学 地域共創センター		
協力団体	三川町中高生ボランティアサークル「来夢来人」、NPO 法人パートナーシップオフィス、IVUSA		
参加人数	45名		
感想	今年度、防災・環境部会が新たにコーディネートした三川・赤川の活動の他地域への広がりを期待する声があり、その意義を再確認できた。また「RE:プロジェクト」の関係者間、県内外の IVUSA 学生との意見交換が行われ、高大学生のみならず参加者の小学生ともディスカッションも実現し、川や海のクリーンアップ現場での交流のみに終わらずに、来年度以降の活動継続に向けた議論ができた。第三次山形県循環型社会形成推進計画のアクションプランに対して、公益大生がさまざまな角度から提案し県担当者からの応答もあり、活発な意見交換ができた。		

事業名		学生活動支援	
目的		本学学生の意欲的な自主活動を支援することで、本学がめざす「大学まちづくり」のさらなる充実を図る。	
	助成金・補助金	事業の目的	採択件数
1	学生活動支援助成金	大学の活性化を目的とした本学学生による自主活動及び本学学生と地域との協働によるまちづくり活動を支援するため、学生からの具体的な活動に関する申請に対し、選考の上、「学生活動支援助成金」として活動経費の一部の助成をすることとする。	3 件
2	災害復興・地域防災活動支援助成金	学生による災害復興・地域防災活動を支援するため、災害復興・地域防災に関する活動（被災地・避難者支援、地域防災活動など）に関する申請に対し、選考の上「災害復興・地域防災活動支援助成金」として活動経費の一部を助成することとする。	1 件
3	まちづくりインターンシップ補助金	学生の街づくり活動及び学生の自主活動を支援するため、街づくりに関する活動（インターンシップ・事例発表・研修活動など）で申請のあった学生について、「まちづくりインターンシップ補助金」として活動経費の一部を助成することとする。	1 件

【学生活動支援助成金採択一覧】

No.	申請日	団体	活動実施代表	活動内容	支出額
1	4 月 5 日	災害復興支援団体チーム moreE	3 年 井上稜也	「地域と関わる楽しさ（防災活動編）」	15,000 円
2	8 月 2 日	ゲートボーラーズ	1 年 大場里瀬奈	ユニフォーム作成費用	50,000 円
3	10 月 8 日	オレンジリボンチーム 2021	3 年 奥山舞	児童虐待防止啓発のオレンジリボンの作成・配布	50,000 円

【災害復興・地域防災活動支援助成金採択一覧】

No.	団体	活動実施代表	活動内容	支出額
1	地域共創センター		ボランティア活動用ビブス作成費用「東北公益文科大学ボランティア」	32,600 円

【まちづくりインターンシップ補助金採択一覧】

No.	申請日	団体	活動実施代表	活動内容	支出額
1	11 月 15 日	IVUSA 山形酒田クラブ 『SOLEIL』	4 年 佐藤創太郎	遊佐海岸の清掃活動、ワークショップ、交流会等	75,600 円

活動実施グループ名 チームmoreE

1. 活動の名称	地域と関わるたのしさ講座(防災)
2. 実施期間	令和3年 5月 22日
3. 具体的な活動内容	(どのような活動を、誰を対象に、いつ、どのように行ったか) 今回、1～4年生とmoreEのメンバーの合計17名で、5月22日に中研修室1を使用し、特定非営利法人「やまがた絆の架け橋ネットワーク」の代表理事である早坂信一さんをお招きして、地域と関わる楽しさ(防災活動編)と題して講話とグループワークをした。 講話では、早坂信一さんがこれまで復興活動に行った時の写真を見せていただき、そこから災害というのは、このようなことが原因で起きるということを教えていただいた。どの写真も衝撃的で、災害の怖さを感じた。避難所の話もしていただき、避難所の写真を初めて見たので、とても勉強になった。 また、今も続いているコロナ禍の避難所は、段ボールにラップをまいて感染対策をしていることが分かった。そして、コロナ禍の避難所の問題点として、人間だけでなくペットも同伴で避難できるような体制を整える必要があるということもわかった。熊本県や、東京都ではペットを同行することができるような対策を進んでいるので、山形県もこれから考えていく必要があると思った。 次にグループワークをして、酒田市の洪水のハザードマップを用いて、自分の住んでいるところを確認して、そこからどのような危険があるのかをグループで共有した。その後、いざという時、自分は何が出来るのか、何をしたらいいのかを考え、付箋に書き出して、模造紙に貼っていった。それから、3つのグループでまとめた内容を発表し合った。 最後に早坂さんからまとめとして、避難所の課題についてお話していただいた。そこでは、学校が行っている避難訓練のあり方について問題ということが分かった。とても有意義な講義とグループワークをすることが出来て良かった。
4. 活動の成果	(今回の活動を通じて生まれた新たな連携や大学・地域における活動の広がり、気づいた点など) 公益大では非常食や段ボールなど、非常事態に備えてどれくらい確保をしているのかを把握して、実際に公益大でも訓練を行いたい。moreEの反省点として、メンバー間で情報共有をあまりできていなかった、役割をちゃんと回せず広報不足になった、皆の意見をもっと聞いて、計画的に進めていくべきだったということが反省点である。 moreEのメンバーが感じたこととして、災害の恐ろしさを知ったと同時に備えの大切さを知ることができ、これから備えていきたいと思う。今回、貴重な講話を聞くことができて良かった。自分の住んでいるアパートは、高台だから大丈夫と考えていたけれど、水道・ガス・電気が止まった状態で2～3日アパートにいたることになってしまった場合、備えをしっかりとすることが大事だと感じた。

※文字サイズは10ポイント以上とし、2ページ以内としてください。

(様式第4号)

令和3年度 東北公益文科大学 学生活動支援助成金 活動報告書

活動実施グループ名 ゲートボールサークル(ゲートボーラーズ)

1. 活動の 名称	ゲートボール
2. 実施期間	令和3年 5月24日 ～ 令和4年 3月31日
3. 具体的な 活動内容	(どのような活動を、誰を対象に、いつ、どのように行ったか) 5月24日、25日 ゲートボール協会の方々を講師にお迎えし「ゲートボール体験会」を実施 6月中旬より、週2回程度の練習会を実施している。 7月24日 第5回庄内町ゲートボール交流大会へ学生・協会の方の混合チームで参加し優勝。 8月31日－9月2日 山口県にて実施される「第1回全国大学GB交流イベント」に参加する予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止となった。 10月27日 公益財団法人 日本ゲートボール連合による「ゲートボールNavi」の取材(2022年3月発行) 12月4日 岩手大学との交流会(岩手県奥州市 すば一く胆沢にて) 12月11日 2名が3級審判員資格試験を受験 → 合格 2月23日 日本ゲートボール連合主催の「オンラインGBフェスティバル」に参加
4. 活動の 成果	(今回の活動を通じて生まれた新たな連携や大学・地域における活動の広がり、気づいた点など) 普段関わるのが少ない地域の方とゲートボールを通して関わる事ができた。そしてオンラインイベントや公益財団法人日本ゲートボール連合が発行する2021年度号「ゲートボールNavi」へ掲載されたことで、本学の認知度だけでなく、他大学との交流についても発信することができた。 次年度以降も、山形県ゲートボール連盟の方から指導していただきながら、他大学との交流や地域の大会などに参加していきたい。また発足当初から考えていた、地元小学校のクラブ活動での交流にも取り組んでいきたいと考えている。

※文字サイズは10ポイント以上とし、2ページ以内としてください。

令和3年度 東北公益文科大学 学生活動支援助成金 活動報告書

活動実施グループ名 オレンジリボンチーム2021

1. 活動の名称	学生によるオレンジリボン運動
2. 実施期間	令和3年 10月1日 ～ 令和4年 2月18日
3. 具体的な活動内容	(どのような活動を、誰を対象に、いつ、どのように行ったか) ■9月 ①9/24(金)オープンチャットの開設 ②9/29(水)社会福祉士ガイダンスで周知 ③9/30(木)オレンジリボン運動実施届の提出 ■10月 ①学生活動支援助成金申請書の作成、提出 ②オレンジリボン、オリジナルポストカードの作成 ③オレンジリボンの配布と啓発 ・社会福祉士実習指導者講習会参加者へのオレンジリボン、オリジナルポストカードの配布と啓発(10月31日(日)) ■11月 ①児童虐待に関する学習 ・11/6(土)講演会への参加:FORUM21「子どもと家庭の支援を考えよう—保育の現場から地域へ—」の受講 ②オレンジリボンとオリジナルポストカードの作成 ③オレンジリボンの配布と啓発 ・放課後等デイサービスみんなのそらの職員へオレンジリボン、オリジナルポストカード配布と説明(11月5日(金)) ・FORUM21参加者へのオレンジリボン、オリジナルポストカード配布と説明(11月6日(土)) ・令和3年度酒田市虐待防止講演会参加者へのオレンジリボン、オリジナルポストカードの配布(11月9日(火)) ・山形県庁へオレンジリボン、オリジナルポストカード配布(11月18日(木)) ・児童家庭支援センターシオンの職員へオレンジリボン、オリジナルポストカード配布(11月26日(金)) ・日向コミセンで地域の人々へオレンジリボン、オリジナルポストカード配布(11月26日(金)) ・「山形県オレンジリボンキャンペーン」ライトアップ写真撮影(in山居倉庫、日和山公園)(11月29日(月)) ■1月 ①学生活動支援助成金報告書作成、提出 ■2月～3月 ①オレンジリボン運動の活動報告書作成、提出
4. 活動の成果	(今回の活動を通じて生まれた新たな連携や大学・地域における活動の広がり、気づいた点など) 講演や配布先の講話、講演会資料などを通じて、児童虐待の実態や庄内地域における児童虐待の現状について学ぶ機会をつくることができた。この機会を通じて、自分たちが今出来ることの一つとして、児童虐待防止運動をやっている団体を周知し、後輩たちに引き継いでいくことだと思った。そしてコロナ禍だからこそ、その都度自分たちができることは何かを考えることで、児童虐待防止の輪を広げていくことができる。また将来自分たちが親になった時には、自分自身が子育てをするときに身近に感じることができ、身近な相談機関や支援団体を活用することができると思う。自身の子どもだけでなく、子ども全体を大切に思う気持ちや心構えを持てると思う。 今回の活動を通じて、学内だけでなく庄内地域、山形県内全域にもオレンジリボンとオリジナルポストカードの配布と啓発をすることができた。具体的には、学内では、地域共創センターをはじめ、子ども支援に興味がある学生が多い灰谷ゼミのゼミ生とともにオレンジリボンを作成した。学外では山形県庁様をはじめ、児童家庭支援センターシオン様や放課後等デイサービスみんなのそら様、県内に勤務している現場の社会福祉士の職員の方々、酒田市日光地区の地域住民のみなさまなどと新たに連携することができた。さらには、学内や山形県庁のSNSなどを通じて広報活動にも貢献することができた。 オレンジリボンの配布や啓発先として、今回は専門職の方が多く、事前にオレンジリボン運動を知っている方が多かったように感じる。それでも、オレンジリボンだけでなくオリジナルのポストカードも一緒に配布することで、学生らしさを表現することができたように思う。 私たちは子どもの健やかな成長のために、家庭内の保護者のみならず、地域や社会のなかで子どもを育てていくことの大切さを実感し、活動からも学ぶことができた。例えばFORUM21の講演の内容では、「児童虐待を見つけたらすぐに通報する」ということについて、地域の中で助け合いが強かったり、周囲の人々が常に気遣ってくれたり、子どもを見てくれる環境が整うような地域づくりがあることで、その家庭が孤独にならず住みやすい環境をつくることのできるのではないかと展望できる。また、地域住民に限らず、専門職として働いている方々においても児童虐待が起こらないように、子どもたちが過ごしやすい環境を調整したり、連携やネットワークがとりやすい活動を展開していくことが必要と感じた。そのために、来年度も活動が継続できることを願っており、また他のサークルとの枠を越えて、七窪思恩園学習ボランティアサークル、かけはしサークル、不登校支援の学生活動団体、保育士を目指している学生、児童福祉分野に興味がある学生などとのコラボレーションの実現を図ることで、活動の発展の可能性が感じられた。

※文字サイズは10ポイント以上とし、2ページ以内としてください。

申請者氏名 IVUSA酒田クラブ 佐藤創太郎

1. インター シップ先の 名称	四季の森 しらい自然館(遊佐町)																						
2. 実施期間	令和3年 11月20日 ～ 令和3年 11月21日																						
3. インター シップの 具体的な 内容	(インターンシップの実施日時、内容、学んだことなど) ①知識を知る NPO法人パートナーシップオフィスさんから、海ゴミの回収方法、危険物の取り扱い方、なぜ海ゴミを回収する必要があるのか等々、活動が始まる前に知識面をインプットしていただくことで、活動に主体的に取り組める環境を作る。 ②学生同士の交流 星空観測(晴天時)やアイスブレイクとしてフォトコンテストを班ごとに実施する。学生同士が交流を深めることにより継続的に問題に取り組める関係性を作る。 ③鳥崎海岸と釜磯海岸の清掃 初日は釜磯海岸の清掃、2日目は鳥崎海岸の清掃を行う。特に釜磯海岸の湧水は鳥海山・飛鳥ジオパークにも認定されている海岸だが、清掃が行われていない現状がある。参加者は現場で何を感じたか、自分はどうするべきかを、活動後のミーティングで班ごと話し合う。 <table border="0"> <tr> <td>11月20日</td><td>11月21日</td></tr> <tr> <td>8時 公益大集合</td><td>7時 朝食</td></tr> <tr> <td>9時 結団式</td><td>8時 箕輪の鮭孵化場、丸池様見学</td></tr> <tr> <td>(庄内総合支町の方の挨拶、 パートナーシップオフィスからの講話 アイスブレイク、リーダーからの挨拶)</td><td>9時 清掃 (鳥崎海岸)</td></tr> <tr> <td>11時 清掃開始 (釜磯海岸)</td><td>12時 昼食</td></tr> <tr> <td>13時 昼食(十六羅漢岩にて)</td><td>14時 清掃 (鳥崎海岸)</td></tr> <tr> <td>14時 清掃開始 (釜磯海岸)</td><td>16時 写真撮影</td></tr> <tr> <td>16時 写真撮影</td><td>17時 解団式(リーダー挨拶、来賓の方の挨拶)</td></tr> <tr> <td>17時 夕食、入浴</td><td>18時 活動後ミーティング、入浴</td></tr> <tr> <td>19時 星空観測</td><td>20時 公益大到着、解散</td></tr> <tr> <td>23時 完全就寝</td><td></td></tr> </table>	11月20日	11月21日	8時 公益大集合	7時 朝食	9時 結団式	8時 箕輪の鮭孵化場、丸池様見学	(庄内総合支町の方の挨拶、 パートナーシップオフィスからの講話 アイスブレイク、リーダーからの挨拶)	9時 清掃 (鳥崎海岸)	11時 清掃開始 (釜磯海岸)	12時 昼食	13時 昼食(十六羅漢岩にて)	14時 清掃 (鳥崎海岸)	14時 清掃開始 (釜磯海岸)	16時 写真撮影	16時 写真撮影	17時 解団式(リーダー挨拶、来賓の方の挨拶)	17時 夕食、入浴	18時 活動後ミーティング、入浴	19時 星空観測	20時 公益大到着、解散	23時 完全就寝	
11月20日	11月21日																						
8時 公益大集合	7時 朝食																						
9時 結団式	8時 箕輪の鮭孵化場、丸池様見学																						
(庄内総合支町の方の挨拶、 パートナーシップオフィスからの講話 アイスブレイク、リーダーからの挨拶)	9時 清掃 (鳥崎海岸)																						
11時 清掃開始 (釜磯海岸)	12時 昼食																						
13時 昼食(十六羅漢岩にて)	14時 清掃 (鳥崎海岸)																						
14時 清掃開始 (釜磯海岸)	16時 写真撮影																						
16時 写真撮影	17時 解団式(リーダー挨拶、来賓の方の挨拶)																						
17時 夕食、入浴	18時 活動後ミーティング、入浴																						
19時 星空観測	20時 公益大到着、解散																						
23時 完全就寝																							
4. 活動の 成果	(インターンシップを通じて生まれた新たな学びや大学・地域における活動の広がり、気づいた点など) 活動を継続していくことの重要性和、回収活動だけではなく、啓発活動にも力を入れていく必要があると感じた。2日間で釜磯海岸のゴミはほぼすべて回収し、鳥崎海岸も清掃を始める前と比較すると、見違えるほどキレイになった。しかし、学生である以上、取り組める期間にも限りがあり、ゴミは毎年堆積していくため、きりがなく、いたちごっこの状態である。少なくとも今回の活動で問題意識をもってくれた方もおり、一緒になって社会問題に立ち向かっていく仲間も増えた。だからこそ、この活動は継続しながら、ゴミの量を減らしていくための啓発活動を行っていくことがとても重要であると感じた。漂着した海洋ゴミの7割は、陸から流れ着いた物だと言われている。つまり、この問題は海辺の人の意識をいくら動かしても、内陸の人が考えをかせなければ、解決しない。だからこそ、公益大、庄内地方にとどまらず、山形県内全体で取り組んでいく、そのための啓発活動も並行して進めていきたいと感じた。																						

※文字サイズは10ポイント以上とし、2ページ以内としてください。

事業名	サービスラーニング支援事業			
目的	ボランティア活動、地域課題解決等に取り組む学生を対象とした研修会を開催。学生の自発的活動、地域貢献活動の支援を行なう。			
	開催日	タイトル名・テーマ等	講師等	役職・職名
1	11 月 12 日 (月) 13:10~14:40	スタイリストに聞く！ 魅力な写真の撮り方講座	三木 ゆみ	アトリエリアン

サービスラーニング支援事業 活動報告書		担当者	進藤 悠子
事業名	スタイリストに聞く！魅力的な写真の撮り方講座		
開催日時	令和3年 11月12日 13:10 ～ 14:40		
会場	公益研修センター 中研修室2		
目的	日々学生はSNSを通じて様々な情報を発信したり、受け取ったりして多くの情報の中で生活している。そしてサークル活動などで情報を発信するときなど、多くの団体が写真を投稿し発信している。 そこで発信した情報や投稿がより多くの方の目にとまり、継続的に発信しながら今後より学生活動が活発になるように今回の講座を企画した。		
内容	① スタイリストの仕事について ② 魅力的な写真を撮るためのポイント ③ 実際にスタイリングして撮影してみよう ④ 画像加工について いろいろな写真の撮り方があるが、どのようにスタイリングすれば綺麗で魅力的な写真が撮影できるのか講演していただいた。後半には実際にポイントをおさえながら、小道具やアプリを使用して実習形式で指導していただいた。		
講師	所属・職名	アトリエリアン	
	氏名	三木 ゆみ 氏	
主催	地域共創センター		
協力団体			
参加人数	18名		
感想	普段特に気にすることなく撮っている写真も、ちょっとしたひと工夫で「映える写真になる」ということがわかって面白かった。人の目を惹きつける写真の裏側には、被写体の構図やアングルなどスタイリストの様々なこだわりがあるのだと思うと、今後の写真に対する見方が変わってくると思った。 実習形式で行った際に、学生が積極的に理解を深めようとしており、今後の学生活動に活かしてもらえないのではないかと考えた。 参加学生からは、「実際にスタイリングをして撮影するのが楽しかった」「いろいろな構図の種類があり、これからも実践したい」「背景や小物も雰囲気を出すために必要なのだと学んだ」という感想を多くいただいた。地域共創センターとして、引き続きこのような学びの機会を増やして学生活動を支援する。		

事業名	地方創生に向けた人材育成事業 「ハタラクカタチ」プロジェクト
目的	学生が庄内地域の企業を訪問、取材をし、若者ならではの視点で地元企業の魅力や地域で働く方のライフスタイルを発信した。令和3年度は、8社を訪問し、庄内地区商工会広域連携協議会による「庄内地域企業見学バスツアー」にも参加し、冊子「ハタラクカタチ Vol.3」を発行した。本学学生だけでなく、地元高校・近隣大学、商工会議所等へ配付・設置を依頼した。
内容	①「ハタラクカタチ」プロジェクトの組織化 ②プロジェクトメンバーによる勉強会の開催、情報収集・ヒアリング等による企業研究 ③企業への説明・協力依頼 ④企業への取材 ⑤取材企業の冊子作成、若者を中心とした市民への発信 ⑥報告書の作成、発信活動
プロジェクトメンバー	3年：池田詩穂 2年：小林龍永、伊藤美羽、佐々木美里、鈴木遥、三ヶ田珠美子、 関明日香、橘愛海、長谷川琴音 1年：小野寺緋彩、柿崎百花、佐藤真純、滝口結斗
取材先企業	【社長編】 ・楯の川酒造株式会社 ・キャド・キャム株式会社 ・株式会社トガシ技研 【従業員編】 ・株式会社みどりサービス マルノー山形 ・本間物産株式会社 マルホンプラス ・株式会社オリーブ ・株式会社庄交コーポレーション ・株式会社酒田天然ガス 【庄内地域企業見学バスツアー】 ・酒田ふれあい商工会 ・株式会社マルハチ ・株式会社大商金山牧場 ・スズモト株式会社 (順不同)
冊子	発行部数：3,700部



「ハタラクカタチ Vol.3」は
こちらから

地域共創センターが関わる令和 3 年度受託事業・補助事業について、報告します。

■受託事業

事業名	地域 IT 人材等育成事業
受託者	東北公益文科大学（地域共創センター）
委託者	酒田市
実施期間	令和 3 年 4 月 1 日～令和 4 年 2 月 28 日
契約金額	9,700,000 円
概要	本学の高度な情報技術を活かした各種講座、研究を通じ、地域で活躍できる IT 人材育成をするとともに、若者の地元定住を促進することを目的とし、令和 2 年度より受託している。 4 つの履修証明プログラム（「データサイエンスに係る講座」、「ビッグデータ解析・活用等にかかる講座」、「ドローン活用等を含む空間情報処理に関する講座」、「情報セキュリティに関する講座」）の開講、「IT に関する技術やアイデア、課題、疑問などを共有、解決するための誰もが参加できるイベントの開催」、「公益大メディア情報コース学生と市内 IT 関連企業、プログラマー等との交流事業」、「地元高校情報科生徒が公益大メディア情報コースを体験するプログラム」、「公益大生が IT を活用して地域課題解決に取り組むプログラム」、「公益大による IT を活用した地図コンテンツ作成」の 9 事業を展開した。

事業名	ボランティアコーディネーション力 3 級検定業務
受託者	東北公益文科大学（地域共創センター）
委託者	酒田市社会福祉協議会（酒田市ボランティア・公益活動センター）
実施期間	令和 3 年 6 月 30 日～令和 4 年 3 月 31 日
契約金額	300,000 円
概要	平成 27 年度より「地域共創コーディネーター養成プログラム」の「コーディネーション研修」として認定特定非営利活動法人日本ボランティアコーディネーター協会共催の「ボランティアコーディネーション力 3 級検定」を開講している。 令和 3 年度も酒田市社会福祉協議会より「ボランティアコーディネーション力 3 級検定業務」を受託した。チラシ配布、新聞記事、酒田市社会福祉協議会広報誌、大学ホームページへの記事掲載等の方法で一般参加者を募集した結果、申込者は 31 名であった。検定受験者は 29 名（2 名欠席）、検定合格者は 20 名であった。

■補助事業

事業名	令和３年度 公益のふるさとづくり活動補助金 「地域共創による公益のふるさとづくり推進」事業
受託者	東北公益文科大学（地域共創センター）
委託者	庄内開発協議会
実施期間	令和３年６月２日～令和４年３月３１日
契約金額	850,000 円
事業目的 及び概要	東北公益文科大学では開学以来、学生と教職員が地域をフィールドに研究、教育と地域貢献活動を実施してきた。その中で、地域共創センターは、地域と大学を結ぶ窓口として、また、地域と大学の連携活動の活動拠点としての役割を果たしている。 令和３年度公益のふるさとづくり活動補助事業では、地域創生に向けた人材育成事業を継続するとともに、これまで同様に本学の地域との協働・共創活動を実践している各事業を支援することにより、本学の地域共創における公益のふるさとづくり活動がさらに進展するよう取り組んだ。令和３年度もコロナ禍において学内外での活動がしづらい状況であったが、その中でできることを模索しながら活動し、「地域創生に向けた人材育成事業」「FORUM21 実施事業」「共創カフェ事業」「学生活動支援助成金、まちづくりインターンシップ旅費補助金、災害復興・地域防災活動支援助成金」「サービスラーニング支援事業」「学生および大学の地域活動等に関する発信事業」「地域連携拠点事業」を実施した。 「地域創生に向けた人材育成事業」については、本学学生で組織する「ハタラクカタチプロジェクト」のメンバーが、若者の視点で庄内地域の企業の魅力や庄内で働くことの魅力を伝えることを目的に８社（うち３社は社長）へインタビュー取材を行い、庄内地区商工会広域連携協議会による「庄内企業見学バスツアー」（４社）にも参加し、冊子にまとめた。 「公益教養プログラム FORUM21」は教員の企画・運営により５回開催、「共創カフェ」も１回開催した。

地域共創センターが令和3年度に発行したパンフレットや冊子を紹介します。

	発行物	内容	作成担当
1	地域共創センターパンフレット	地域共創センターの事業紹介	地域共創センター 事務室
			
2	冊子 ハタラクカタチ Vol. 3	庄内地域企業の魅力紹介	ハタラクカタチ プロジェクト
			
3	酒田おもてなし隊	酒田おもてなし隊の活動紹介	酒田おもてなし隊
			
4	Liga（リーガ）食品ロス削減チームリーフレット	Liga 食品ロス削減チームの活動紹介	Liga 食品ロス削減 チーム
			